

被災者に富有柿と米を

本巣の団体
「お互い様隊」

宮城・石巻向け出発



東日本大震災の被災者に本巣市特産の富有柿と市内で収穫された米を届けるため、市内の経営者や農家らでつくるボランティア団体「お互い様隊」が二十一日、宮城県石巻市に向けて出発した。

届けるのは、富有柿六トンとハツシモ五トン。柿は、地元のマル糸柿振興会に加盟する生産

者、米は農家から譲り受け、四ントラック二台と乗用車一台に積み込んだ。メンバー十三人が二十四日まで滞在し、仮設住宅十カ所で配る。

お互い様隊は、本巣市で中古タイヤの販売を手掛ける鶴本雅巳さん(四二)の呼び掛けで知人らが集まり、九月から準備を進めてきた。

出発式は本巣市役所で行われ、雅巳さんは「東北は厳しい冬を迎えるが、本巣の柿と米んは五月に石巻市を視察。六月以降、週一回のペースで野菜などを送っている。

本巣市議で父の規之さんは、元気を出してもらいたい」とあいさつ。藤原勉市長は「市民の熱い思いを、寒さが増していった東北に届けてほしい」とエールを送った。

(西川正志)

えるが、本巣の柿と米で元気を出してもらいたい」とあいさつ。藤原勉市長は「市民の熱い思いを、寒さが増していった東北に届けてほしい」とエールを送った。